

2018WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 11 (7/29)

大会最終日を迎え、日本代表チームのレースはBM2xのB決勝を残すのみとなった。他のクルーの選手はBM2xのレースの前に陸上トレーニングや乗艇を行い、BM2xクルーの応援に備えた。

9:35 BM2x B決勝

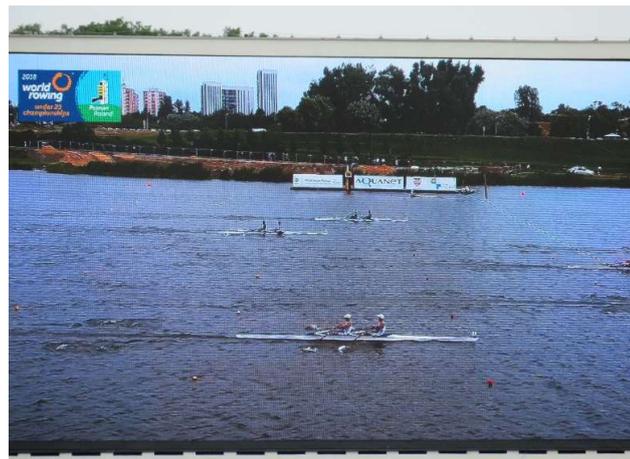
昨日の一番である準決勝A/Bで大敗を喫したBM2xクルー。この日のレースはその雰囲気を感じさせないスタートからはじまった。流石に昨日大差を付けられた相手もいる中で中々前に出してもらえないが、レースの流れにはしっかりと食らいつき、500mの通過は1分32秒90で1位ドイツから2.77秒差の5位で通過するもドイツ以外はほぼ横一線だ。第2クォーターに入っても激しい展開は続く。日本の後に着けていたセルビアが伸びてきて一気に3位に浮上。日本は前に行くクルーを攻略することはできずに、6位で1000mを通過するも、崩れる様子は全く見えない。第3クォーター、我慢どころで前に行く南アフリカとロシアに接近し、そのまま差を詰め一気に抜き反撃モードに入りラストクォーターへ。ここでレースを引っ張るドイツ、セルビア、中国が一気にスピードアップする。日本も必死にスパートを入れ続けるが、1900m地点で必死のスパートを見せていた日本にミスオール。最終的にロシアにかわされ5位でゴール。U23カテゴリーとはいえ、世界のオープンウェイトのB決勝を堂々と戦い抜き、日本代表チーム最後のレースにふさわしい内容で締めくくった。

日本代表チーム最後のレースに向けて、いざ出艇！





500m地点、一番奥が日本クルー、オープンウェイトカテゴリーの最終日クラスのレースに食らいついている。



1500m地点、ロシア(手前)、南アフリカをかわし4位に浮上する日本。



ゴール直前、必死にスパートをかける日本クルー
写真左からS櫻間選手(同志社大学)、B木村選手(日本大学)

今大会は、安井選手(早稲田大学)の素晴らしいレースから始まり、各クルー中々思うようには行かなかったレースは途中あったものの、それぞれの最終レースは流石日本代表と思わせてくれる素晴らしいレースを展開してくれました。これも、各所属団体に鍛え上げられたベースがあつてこそ、そして世界の舞台上で選手たちが自分で考え判断し、組み立てる能力をいかに発揮した結果だと考えます。

今回世界を相手に力を尽くしてくれた選手たちは、すでに次のターゲットに向けて意識を切り替えています。どうかこれからも日本ボート界が一丸となって世界と戦えるよう応援よろしくお願い致します。

最後に今回の遠征にご協力いただいた全ての皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

「ご声援ありがとうございました」



後列左より、伊藤(BLM1x)、武田(BLM4x)、宮浦(BLM4x)、新井(BLM4x)、一瀬(BLM4x)、桜間(BM2x)、木村(BM2x)

前列左より、高野(BW2-)、高島(BLW4x)、安井(スペアレースBLW1x)、石垣(BLW4x)、西原(BW2-)、中条(BW2x)、瀧本(BLW4x)、成瀬(BLW4x)、米川(BW2x)